

院内災害時対応訓練を実施しました

当院ではこのほど、巨大地震の発生を想定した院内災害時対応訓練を実施しました。

平日午後に北上高地を震源とする M7 震度 6 強の地震が発生し、多数の傷病者が発生したとの想定で実施。例年は災害対策本部の設置から患者受入までを行う総合訓練として実施していましたが、今年度は災害対策本部訓練と患者受入対応訓練を別個に実施し、それぞれの役割を確認しました。

昨年 12 月 18 日（木）に実施した本部訓練には病院幹部職員、各部門の代表者、事務職員等、総勢約 50 名が参加。災害発生時における院内対策本部の迅速な立ち上げを主眼とし、院内での指揮系統の確認、安全確保、被害状況の把握、連絡体制の構築等の初期業務を訓練し、各構成員がそれぞれの役割を確認しました。

2 月 20 日（金）に実施した受入訓練には当院所属の DMAT 隊員 17 名のほか、医師、看護師、消防隊員、事務職員等、総勢約 80 名（傷病者役の職員を含む）が参加。多数の傷病者が来院する事態を想定し、トリアージエリアの設置から救護活動までの一連の流れを確認するとともに、各トリアージエリアにおいてはトリアージタグの記載・装着、患者情報入力等を訓練しました。

3 月 11 日で東日本大震災の発生から 15 年が経過しましたが、この間、熊本地震、能登半島地震など、多数の死者を出す地震災害が続いたほか、当地域においても昨年 12 月 8 日深夜の青森県東方沖地震（M7.5）の発生は記憶に新しいところです。当院は災害対策基本法に基づく災害拠点病院の指定を受けており、災害発生時には被災地からの傷病者の受入拠点になるほか、県の災害対策本部と地域を結ぶ中継基地としての役割を担い、更には地域の医療機関への支援も求められます。当院でもこうした訓練を積み重ねることで、災害時の混乱を最小限にとどめるとともに、有事への備えを万全にしていきたいと思います。



令和7年度 各種研修会・講座の開催報告

当院では今年度も、地域の医療従事者を対象とした各種研修会、地域住民を対象とした各種講座を多数開催いたしました。その内、地域医療福祉連携室が企画した研修会・講座の開催状況について報告いたします。

<認定・専門看護師研修会>

当院に11名配属されている認定・専門看護師が持ち回りで講師を務め、令和7年6月～12月まで計8回にわたり開催しました。当保健医療圏内の病院・医院、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、介護老人保健施設等の保健師・看護師をはじめ、医師、ケアマネージャー、理学療法士等、延べ241名が参加しました。

参加者が最も多かったのは、6月30日(月)に開催した、皮膚・排泄ケア特定認定看護師による「高齢者の皮膚を守るケア～清潔・保湿・保護の再点検～」で、オンライン参加を含め、59名の医療従事者が参加しました。加齢に伴い様々な機能変化や、予備能力が低下し健康障害に対する脆弱性が増加する高齢者の皮膚の特徴を冒頭で取り上げ、スキンケアの基本である洗浄、保湿、保護の流れを組み合わせるスキフレイルを予防すること、また、洗浄剤の選び方や界面活性剤の仕組み、医療用保湿剤の種類・特徴なども取り上げられ、参加者からは「皮膚の保湿・保護の大切さが良く分かった」「スキンケアが大事なことを改めて認識した」等の声が寄せられました。

皮膚・排泄ケア分野以外の開催実績は、以下のとおりです(開催形式は救急看護分野を除きすべて当院参集とオンライン(Zoom)とのハイブリッド形式)。

- ・7月17日(木)：集中ケア分野「みてわかる 呼吸と循環の基礎 看護に活かす解剖生理」
参加者 37名
- ・7月29日(火)：救急看護分野「急変対応」参加者 6名
- ・9月4日(木)：緩和ケア分野「呼吸困難“感”への初期対応～発症メカニズムとすぐできること」参加者 45名
- ・10月20日(月)：がん化学療法分野「がん薬物療法における看護」参加者 26名
- ・11月4日(火)：認知症看護分野「行動・心理判定を翻訳するために必要な知識」参加者 20名
- ・11月19日(水)：老人看護分野「認知症高齢者対応のコツ」参加者 24名
- ・12月4日(木)：緩和ケア分野「消化器症状のマネジメント～悪心・嘔吐、便秘～」参加者 6名

<地域医療研究会>

当院参集とオンライン(Zoom)とのハイブリッド形式により、11月27日(木)に開催しました。

近隣の保健医療圏を含む地域の医療機関、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等から医師、看護師等合わせて32名が参加、当院から3題出題しました。

1題目は「緩和ケア病棟のすゝめ」と題し田中第2緩和医療科長が講演、当院の緩和ケアの仕組みについて制度面及び施設・設備面から紹介しました。2題目は

「当院における薬薬連携の取り組み」と題し高橋薬剤科次長が講演、患者への適切な薬物療法提供及び安全性確保を目的とし病院と地域の保険薬局が情報共有を行う薬薬連携について、がん化学療法関連を中心に取り組みを紹介しました。3題目は「DPN(糖尿病性末梢神経障害)チェック」と題し戸来臨床検査技師が講演、神経障害発生のメカニズム、検査方法の紹介のほか、DPNが疑われる場合の対処方も紹介しました。



<医科歯科連携研修会>

当院参集とオンライン（Zoom）とのハイブリッド形式により2月26日（木）に開催しました。当保健医療圏内の歯科医師を中心に、当院スタッフを含め34名が参加しました。

医科・歯科分野から1題ずつ出題。歯科は「がん化学療法による口腔粘膜炎に対するの局所管理ハイドロ創傷被覆・保護剤（エピシル®口腔用）の使用経験」と題し、おおひら歯科医院（花巻市）の大平明範院長が講演、医療機器である同剤使用時の注意点のほか、がん化学療法においては口腔粘膜炎の発生が避けられず、増悪因子を減らす対策の重要性が示されました。医科分野は「当科における口腔腫瘍治療について」と題し、当院の古瀬耳鼻咽喉科長が講演、舌がん、口腔底がん及び口蓋腫瘍の症例をもとに、当院での治療について紹介しました。

<市民公開講座>

花巻市文化会館中ホールにて9月29日（月）開催、地域住民69名が参加しました。

はじめに当院の川村院長から「中部病院の現状と課題」と題し講演、各種統計データをグラフで図示するとともに、当院の使命の一つである救急医療の維持のため、適正受診の推進を呼びかけました。続いて山下第1眼科長から「眼の健康寿命を延ばすために—アイフレイルとその予防—」と題し講演、日本人の視覚障害の主たる原因である緑内障、糖尿病網膜症及び加齢黄斑変性は早期発見で悪化を防ぐことが可能なこと、加齢による眼の機能低下は誰でもなり得るものであり、40歳以上の方の眼科検診が推奨されていることを挙げました。最後は菊池歯科衛生士から「口から始まる長生きの秘訣～オーラルフレイル対策～」と題し講演、歯周病菌が全身に様々な影響を及ぼす故、口腔内を清潔に保つことの重要性を挙げるとともに、対策として、唾液腺マッサージ、口腔体操等を紹介しました。



<出前講座>

地域からの注文に応じて各分野の担当者が地域住民を対象に専門知識を生かした講座を行う「出前講座」。今年度は当院が主催する出前講座のほか、北上市が企画・実施する「北上市生涯学習まちづくり出前講座」及び花巻市が企画・実施する「ふれあい出前講座」への講師派遣を含め、計15回開催、延べ386名の地域住民が参加しました。

参加者が最も多かったのは、9月18日（木）に盛岡市都南公民館小ホールで開催した「がんの治療と緩和ケア～がんになっても安心して暮らせる町をめざして～」で、93名の参加でした。当院星野副院長（緩和医療科長兼務）が講師となり、がんの予防・治療・緩和ケアについてユーモアを交えわかりやすく説明。講演終了後、参加者からは「がんになっても希望を失うことなく生きていけることがわかりました」「緩和ケアは何か怖いようなイメージを持っていたのですが、全くイメージが変わりました」「2人に1人のガンが怖くなくなりました」他、多数のメッセージをいただきました。

※ 当院では、出前講座の申込を随時受け付けています。

現在、歯科衛生士、認知症看護認定看護師、管理栄養士、緩和ケア科医師及び医療社会事業士（ソーシャルワーカー）が講師を務める5講座を開講しています。

講座メニュー、その他詳細は [中部病院公式ホームページ](#) をご覧ください。

（TOP ページ「[医療機関の方へ](#)」から「[研修会・研究会、出前講座](#)」をクリック）

RI 検査の「予約申込票」様式を一部変更しました

【変更点】

抗うつ薬（三環系うつ剤、セロトニン再取込阻害薬）の服用の有無記入欄を、ダットスキャン検査申込の場合に限り、併用注意薬剤の服用の有無（有の場合は薬剤名）を記入するかたちに改めました。

←変更後の様式（見本）

変更後の様式は、中部病院公式ホームページからダウンロードできます。

（掲載場所）

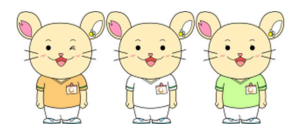
TOP ページ →医療機関の方へ
→患者ご紹介・検査申込
→各種申込書様式
→RI 検査予約申込票

※ 併用注意薬剤の種類については、「ダットスキャンに関する併用薬の情報提供依頼について」をご覧ください。

※ RI 検査実施 2 日前の 15 時以降のキャンセルについては、薬剤代金の患者負担が生じることとなります。詳しくは「RI 検査予約変更の取扱いについて」をご覧ください。

～～ 岩手県立中部病院 理念と基本方針 ～～

- 理 念** 心のかよう患者中心の医療を実践し、地域社会に貢献する。
- 基本方針**
1. 安全で質の高い医療を提供する。
 2. 医療・保健・福祉施設、行政との協働を推進する。
 3. 人間性豊かな医療人を育成する。
 4. 明るく働き甲斐のある職場をつくる。
 5. 健全な病院経営に努める。



地域医療福祉連携室からのお願い ◇当院は予約制です◇

基本的に外来診療は予約制とさせていただきます。

予約なしに紹介状を持参された場合、長時間お待ちせしたり、外来の状況によっては予約を取り直して後日来院いただくこともございます。

お手数をおかけしますが、緊急の方以外は F A X で事前予約のお申込をいただくよう、ご協力をお願いいたします。

なお、当日の患者紹介の際は、紹介先の診療科医師に電話にてご一報いただけますと、よりスムーズに患者さんを受け入れることができますので、ご協力をお願いいたします。



発行：岩手県立中部病院
地域医療福祉連携室

〒024 - 8507

岩手県北上市村崎野 17 地割 10 番地

TEL 0197 - 71 - 1511（代表）

0197 - 71 - 1518（連携室直通）

FAX 0197 - 71 - 1881（連携室専用）

URL <http://www.chubu-hp.com/>

令和 8（2026）年 3 月

